KKR札幌医療センター
KKR Sapporo Medical Center

平成２９年２月28日発行
発行所：ＫＫＲ札幌医療センター
発行責任者：地域連携・がん相談支援センター
センター長　本多　敏朗

# 地域連携・がん相談支援センターだより

Regional alliances and support

2017
56号

「小樽運河の夜」　撮影者：放射線科部長　永倉久泰

## 目　次

1. 新年のご挨拶
2. 高度生殖医療の開始にあたりまして
3. 連携医療機関のご紹介　「れんけいの輪」
5. 地域連携・支援センター講演会について
6. 地域連携・がん相談支援センター新スタッフ紹介
7. ＫＫＲ札幌医療センターの理念・基本方針
編集後記
地域連携・がん相談支援センター職員一覧

# 新年のご挨拶

病院長　磯　部　　宏

新しい歳を迎えて

新年おめでとうございます。と、申し上げましても、既にふた月が経ちました。連携いただいている諸先生方には日頃から格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、2017 年の当院は健康管理センター棟の新築から幕が開きました。敷地内北東の角の旧健康管理センターを新築建て替えいたしました。この連携室だよりが先生方のお手元に届く頃には健康管理部門や外来化学療法部門の引っ越し準備中であり、4 月からの業務開始に向けて種々の作業が進んでいることと思います。各種検診業務や外来化学療法をより快適に、より安全に行うことができ、これまで以上に検診受診者や治療患者さんのお役に立つと自負しております。連携いただいている先生方にも少しでも安心してご紹介いただけるのではないかと思っております。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

さらに 4 月以降は、新棟へ一部業務が移りますので、その空いたスペースを利用して地域医療支援病院としての役割をさらに強めるべく、先生方との連携強化に努めたいと思っております。当院の医師や診療機能をより深く先生方に知っていただきたく、またいわゆる顔の見える関係になるべく、まずは当院自身が努力していくのだと職員の想いを結集したいと考えております。その上でさらに先生方のご支援をいただき、より大きな・より強い医療連携ができるよう病院の顔を変化させていくことが今年の目標です。先生方と一緒に地域医療に貢献すべく、是非是非ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 高度生殖医療の開始にあたりまして

産科部長　西　　信　也

2016 年 8 月 1 日より KKR 札幌医療センター産婦人科に勤務しております西信也と申します。1992 年に北海道大学医学部を卒業し、同年、北海道大学産婦人科学教室の門をたたきました。道内の関連施設でトレーニングを積み、国内外の研究留学を経て、北大病院、前任地である江別市立病院の勤務の後、現在に至っています。

地域の先生方からのお力添えもあり、これまで当院産婦人科は、婦人科医療、周産期医療ともに幅広く診療にあたらせていただいてきました。昨年 11 月よりそれに加えて、高度生殖医療（生殖補助医療 Assisted Reproductive Technology：ART）を開始いたしましたので簡単ですがこの場をお借りしてご紹介させていただきます。

図にお示しますように、不妊治療法は一般不妊治療と高度生殖医療（生殖補助医療：ART）に大別されます。従来の一般不妊治療では妊娠が困難な御夫婦が ART の治療対象となります。ART とは一言でいえば、体外受精 - 胚移植を中心とした医療技術となります。体外受精 - 胚移植は、排卵直前の卵巣から卵子を体外に取り出し、体外で精子と受精させ、得られた胚（受精卵）を子宮に移植し、妊娠を期待する手技です。その歴史は比較的浅く、1978 年にイギリスで体外受精による世界初の赤ちゃんが誕生したことが始まりです。その後、顕微授精、胚（受精卵）の凍結保存など、生殖医療の技術は急速に発展してきました。現在、日本では年間 4 万人以上の赤ちゃんが ART により誕生しています。近年の出生数から算出すると、2016 年に生まれた赤ちゃんの 19 人に 1 人が ART ベビーということになります。

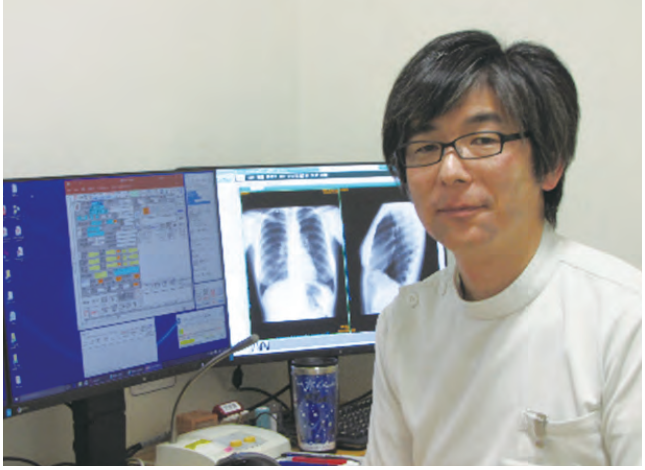
一方で、不妊治療＝ART ではありません。黎明期は卵管性不妊が ART の主たる適応でしたが近年では、卵管性不妊より「原因不明不妊」が増加しているようです。正確な統計をとるのは困難ですが、「原因不明不妊」の患者さんの半数以上に軽症の子宮内膜症を認めると言われています。子宮内膜症性不妊のあるものは腹腔鏡手術で自然妊娠が可能となることも少なくありません。ART といえど完全ではありませんし、腹腔鏡手術も同様です。２つの治療が相互にその短所を補い合えるのが理想と思います。微力ではございますが、一般不妊治療（特に腹腔鏡手術）、ART を治療の両輪として患者様のニーズに合わせて治療を展開していければと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

日頃、連携をさせて頂いている当院の連携医の先生を紹介します。
今回は、「さかうえ内科クリニック」の坂上慎二先生と「小熊クリニック」の小熊修子先生をご紹介いたします。

# さかうえ内科クリニック

院長　坂　上　慎　二

〒062-0907
札幌市豊平区豊平７条８丁目２－１
札幌東光ストア豊平店西館Ａ棟２階
☎ 011-824-5757　Fax 011-824-5777



当院は、2007 年に前院長の石井純先生が豊平に開業し、5 月で通算満 10 年を迎えます。2011 年に私が継承してクリニックの名称を変更しましたが、近隣の先生方、KKR 札幌医療センターの先生方には大変お世話になっているおかげで診療を続けることができています。ありがとうございます。

当院は内科・糖尿病内科を標榜しており、糖尿病患者をはじめ、高血圧、脂質異常症、甲状腺疾患が多いのですが、風邪、腹痛などなど様々な患者さんも来られます。当院で対応できることは限られますので、専門医へ紹介するゲートキーパー（しゃれていうとコンシェルジュ？）的な役割のみで終わることもあり、KKR 札幌医療センターとの連携は、なくてはならないものになっています。

当院の診療は糖尿病が中心で、計 4 名在籍している糖尿病療養指導士の資格をもつ看護師・管理栄養士とともに、糖尿病教育、食事指導から外来でのインスリン治療導入などを積極的に行っています。糖尿病科の先生に入院治療をお願いすることのほか、糖尿病特有の血管合併症のため、眼科、循環器科の先生にお世話になる機会も多くあります。日本における糖尿病患者の死因は糖尿病のない方々と同じで癌が最も多いと言われています。実際当院でも、血糖値が悪化してきて調べてみると膵癌、という例がときどきあります。ほかに大腸癌や肝癌も糖尿病患者でリスクが高いと言われており、このような癌をできるだけ早期発見できないかと感じていますがなかなか難しく、消化器科の先生のご協力も不可欠です。

このように糖尿病ひとつとっても多くの診療科の先生のご協力無しでは成り立たず、今後とも皆様にはお世話になることと存じますが、何卒どうぞよろしくお願いいたします。

# 小熊クリニック

院長　小　熊　修　子

〒062-0904
札幌市豊平区豊平４条９丁目 1-28
☎ 011-811-2681　Fax 011-811-5112

皆さま、はじめまして　小熊クリニックの小熊修子と申します。

当院は皮膚科のクリニックで平成 16 年 3 月に開業しました。それまでは現クリニックの並びにあった父粟田博之の医院にて診療を行ってまいりました。父の代から数えるとかれこれ半世紀ほど豊平の地にて医療に携わり、これまでたくさんの地域の方々に支えられ今に至っております。クリニックの場所は、東光ストア豊平店の並び旧定鉄豊平駅跡地（現在は､マンション）の隣にあります。高層マンションと高層マンションの隙間にマッチ箱のようにちょこんと建っております。

当クリニックでは、月曜日から土曜日まで外来診療を行っており、火曜日の午後は皮膚生検、皮膚腫瘍などの小手術も行っています。外来では、アトピー性皮膚炎、水虫、水いぼ、接触性皮膚炎、じんましん、熱傷、創傷など一般的な皮膚疾患全般の治療はもちろんのことプロペシア・ザガーロ・フィナステリド錠を用いたAGA の治療、グラッシュビスタを用いたまつ毛貧毛症の治療なども行っております。小さなクリニックですが、治療を受けられる方々の目線にたち、薬の使用方法や日常生活での注意点など治療に対する不安を取り除くようわかりやすい説明と丁寧な処置をこころがけ診療しています。また、受診当日の院内での待ち時間を解消し快適に受診できるようインターネットによる予約受付や外出時の PHS の貸出なども導入しております。

開院当初より KKR 札幌医療センターの皆様には大変お世話になっております。特に地域連携室のスタッフの皆様や皮膚科の先生方、看護師さんには大変感謝しております。受け入れていただく際の予約システムや受け入れ後の治療内容の連絡など迅速かつ丁寧に対応していただけるのでとても助かっています。受け入れ態勢一連の流れがスムーズで信頼のおける先生方に安心して患者さんを任せることができる KKR 札幌医療センターは病診連携の鑑だと思っています。私たち開業医にとって信頼できる基幹病院は何より大切です。今後も微力ながら地域医療にかかわっていこうと思っていますのでよろしくお願いいたします。

最後に私事ですが、私は札幌市医師会の書道クラブに属しており年に 1 度の展覧会のため作品作りに日々励んでおります。毎年 11 月頃に 5 日間くらいの期間で展覧会を紀伊国屋書店または市民ギャラリーにて開催しております。書道に興味をお持ちの方、そうでない方もお近くに来ることがありましたら立ち寄っていただけると幸いです。

# 地域連携・支援センター講演会について

地域連携支援副センター長　白　井　真　也

「地域連携医　講演会・懇親会」の想い

平成 28 年 11 月 26 日に私共主催にて、「地域連携医　講演会・懇親会」を開催させていただきました。この会はやや不定期の開催ではございましたが、今回は磯部宏先生が院長に就任され、また地域連携・がん相談支援センターも新しく本多敏朗先生がセンター長に就任され、新体制での意気込みを感じていただこうと開催いたしました。このためもありまして今回はご紹介いただきました症例のご報告ではなく、3 名の先生方からの連携医の皆様へのメッセージとしての講演会の形とさせていただきました。はじめに磯部先生自らがその専門分野であります肺癌につきまして、予防対策や早期診断に対する啓蒙、また CT 診断の進化などをご紹介させていただきました。次に本多先生からは日常診療における工夫として、いま流行りの（？）“コーチング“を活用した患者様とのやりとりのご紹介でした。おそらく連携医の先生方も一昔前とは違う患者様と医師の関係性の変化を感じておられるかもしれず、新たなアプローチとして注目いただけたことと存じます。最後に小児アレルギー・リウマチセンター長として着任されました小林一郎先生からは、小児のリウマチ性疾患の診療についての講演をいただきました。小林先生は厚生労働省の研究班にも所属されており、日常診療のコツから鑑別、治療に至るまで多岐に渡っての内容でした。Common disease ではないものの、これらの疾患の知識が連携医の先生方の日常診療に大いにお役立ていただけるものだと存じます。さて講演会の後には懇親会もございました。実は今回当院の診療各科の部長が多数出席しており、簡単ではございますが自己紹介をさせていただきました。その他の医療スタッフも数多く出席しておりまして、正直なところ私自身も驚きましたのと同時に、スタッフが皆、先生方との連携の大切さを強く想っているのであろうと実感いたしました。地域に根差した総合病院としまして、我々は今後も益々地域の先生方との連携を深めて参りたく想っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

# 地域連携・がん相談支援センター新スタッフ紹介

## 辻　村　すみれ（つじむら　すみれ）

私は消化器外科病棟に７年、呼吸器センターに４年おりましたが、２人目の出産・育児休暇を経て、この度地域連携室に配属されました。現在は退院支援看護師として５階フロアを担当させて頂いております。患者様が在宅で過ごせるように調整を行ったり、転院の調整をしております。患者様・ご家族、地域の病院や関連施設、病棟との連携を密に行い、スムーズな退院調整を目指します。また、地域連携室の役割として、地域の患者様や連携医療機関に信頼されるよう丁寧な対応を心掛けていきます。

---

倫理ベーシック

# 意思決定プロセスの臨床倫理

ー治療方針決定をめぐってー

2016年3月10日（金）
17:00～18:00　3F･大会議室

**清水 哲郎** 先生
東京大学大学院人文社会系研究科
死生学･応用倫理センター
上廣死生学･応用倫理講座 特任教授

- 倫理一般と臨床の倫理
- 治療方針決定の二つの柱ー価値評価の物差しとプロセス
- 意思決定プロセスについての考え方の変遷と現状
- 意思決定プロセスに関する諸ガイドライン
- 本人･家族の意思決定支援

## KKR 札幌医療センター
## 理 念

「病院は人」のこころで、活力ある病院、選ばれる病院を創ります
生命の尊厳を保ち、健康の回復につくします
温かな配慮で安寧（あんねい）につくします

## 基 本 方 針

1．“生活の質”向上に重きをおく医療を心がけます
2．安全を確保し、時代を先取りした医療を推進します
3．患者さんの声に耳を傾け、分かりやすく説明します
4．医療の情報を進んで開示します
5．地域に信頼される医療を目指します

## 編 集 後 記

皆様、明けましておめでとうございます。今年の酉年は、商売に縁起の良い年だといわれ、お祭りに「酉の市」がありますがこれは商売の神様を祭るお祭りとされています。

さて今年の干支の丁酉（ひのと・とり）は、どのような年となるのでしょうか？ 60 年前の丁酉は、革命の年ともいわれ、宇宙開発、エネルギー、企業の海外展開など発展的な年でした。しかし 60 年に一度の大騒乱、特に火にまつわる災害も多かったようです。

そのせいなのか新年早々の大きな騒動は、アメリカ 45 代大統領に泡沫候補と言われていたトランプ氏が選出された事に尽きるようです。就任早々新大統領は、ツィッターへ大量投稿し重要政策を説明もないままに一方的に伝えている為に様々な混乱を招いています。

ツィッターとは、小鳥のさえずりを指すようですが新大統領のそれは小鳥などという可愛いものではなく、暴言ともとれる言葉の過激さは眼光鋭い鷲や鷹などの猛禽類の如し。

ツィッターで政策を発信する大胆なやり方が世界中に様々な物議を醸しだしています。

しかし要は、その情報発信にいちいち翻弄されずに何が真実なのか嘘なのかを慎重に見極める必要があるという事なのでしょう。輝く 2017 年は、ともに頑張りましょう！

地域連携室　島田久子


## KKR 札幌医療センター

〒062-0931 札幌市豊平区平岸 1 条 6 丁目 3-40
TEL 011-822-1811(代)

連携いただいている先生方よりお受けしております
地域連携室直通　TEL　0120-552-303
FAX　011-832-9624

医療施設・患者・家族よりお受けしております
がん・緩和ケア相談　TEL　011-832-3260

### 地域連携・がん相談支援センター職員

| | | |
|---|---|---|
| センター長 | 本　多　敏　朗 | |
| 副センター長 | 白　井　真　也 | |
| センター師長 | 平　山　さおり | |
| 地域連携企画課長 | 折　舘　和　慶 | |
| 地域連携室 | 湯　瀬　美佳子 | （室長兼看護師長） |
| | 辻　村　すみれ | 看護師（主任） |
| | 藤　島　尚　子 | 看護師 |
| | 島　田　久　子 | 看護師 |
| | 大　石　ひろみ | 事務員 |
| | 五十嵐　　悠 | 事務員 |
| 医療社会事業相談室 | 松　田　知　恵 | 社会福祉士（主任） |
| | 木　村　府佐子 | 社会福祉士 |
| | 宮　崎　雪　枝 | 社会福祉士 |
| | 桃　内　愛　実 | 社会福祉士 |
| 在宅看護・退院支援室　室長 | 平　田　公　子 | 看護師（主任） |
| | 池　　好　未 | 看護師 |
| | 小　松　友　希 | 看護師 |